
サイドクロスイン・ザ・ティマーズモード

台風X号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サイドクロスイン・ザ・ティマーズモード

【Nコード】

N0660Z

【作者名】

台風X号

【あらすじ】

デジモンシリーズの中でもこんな作品が登場。

第一話 これがウチとデジモンの出会い、ツワードハンデモン

犬沢メイは、ある少女と話していた。

「八神先輩、今日もあれ見せてよ。」

「メイさん。あのイラストが気に入ったんですね。」

八神ヒカリと犬沢メイは、イラストの交換をしていた。

「じゃ、また今度ね。」

「分かったよー♪」

メイは、大学の廊下を歩いているとき、突然廊下の様子がおかしくなった。

「ん？」

メイはそのことには気にしたが次の講義の時間の場所に移動した。

その夕方、メイはバスを待っていた。

「まだかな？」

何やら影がメイを見ていた。

夜

メイは自分の部屋でツイッターを楽しんでいた。

「明日は土曜日か。夜更かししたいけど気になることがあるから早めに寝ることにしよう。」

メイは、テレビを少しだけつけた。

「また無差別放火事件・・・最近多いなあ。」

無差別放火犯の犯人は・・・

「よくやったぞ。ヒューマサテライトモン。」

ヒューマサテライトモン 人工衛星型 完全体 必殺技「サングラ
ンドバスター」

「イタカガと一緒にいると楽しいもつと放火しよう。」

「ああ、そして上手く逃げよう。」

此の二人は、厄介なところにいた。

デジクオーツで会話していたのである。

翌日・・・

メイは早速、外に出てあたりを見回していた。

イタカガがメイを呼んだ。

「君、何かお探しかい？」

「あなたは、無差別放火犯だ。」

「もうバレていたのか。ヒューマサテライトモン、始末しろ！」

「了解。」

「させるかー！」

突然、謎の影がヒューマサテライトモンを攻撃した。

「一緒に来て。」

メイは、その声に誘われるかのように必死に走った。

「逃がすか。」

そして、路地に逃げ込んだメイはそこに落ちている無色のクロスローダーを見つけた。

「あのクロスローダーに君の名前を言って。」

「犬沢メイ！」

無色だったクロスローダーが黄色に変わった。

「強い熱意と仲間を思う気持ちがある色だ。」

「凄い！そうだ早速、ヒューマサテライトモンを。」

「そいつを倒したいのなら、デジクオーツに行こうよ。」

「でもどうやって？」

「タイムシフトというとデジクオーツに行けるんだ。」

「タイムシフト！」

メイは、デジクオーツに入った。

「此処がデジクオーツ。」

「そうだよ。僕はリキトモン。」

クロスローダーからも声がした。

「私はシルギモン。」

早速、イタカガとヒューマサテライトモンに見つかった。

「リキトモン。」

「シルギモンとデジクロスさせてくれ。」

「うん、分かった。デジクロス、リキトモン。」「よっしゃー！」

「シルギモン！」「はいっ！」

「デジクロス！クロスアップ、ツワードハンデモン！」

ヒューマサテライトモンは、ツワードハンデモンに殴りかかるが行動力の早いツワードハンデモンに読まれていた。

「こっちの方が早いんだよ。」

「なにっ！」

「ツワーリングソルジャー！」

「くっ・・・」

「ひるむなヒューマサテライトモン。」

「サングランドバースト！」

メイに目掛けて飛んできたのをツワードハンデモンがかばった。

「ツワードハンデモン。大丈夫？」

「ああ、でも奴は人間と手を組んでいるどうかして作戦を駄目にしたい。」

「ウチもそう思う！」

クロスローダーが黄色く輝きはじめた。

「これは・・・」

「メイ、それは超進化の光。それで俺を進化させてくれ！」

「なるほど！ツワードハンデモン超進化！」

「超進化！グレードハンデモン！」

グレードハンデモン 合成型 究極体 必殺技「グレードハンティング」

「ヒューマサテライトモンぶっ倒せ！」

「サングランドバースト！」

グレードハンデモンは攻撃を防いだ。

「残念！こっちから攻めるぜ！グレイテストストーム！」

ヒューマサテライトモンを上を持ち上げた後

「終わりだ！グレードハンティング！」

「な！ぎややあああああ！」

ヒューマサテライトモンはメイが捕獲した。

「デジモン捕獲完了！」

メイはリアルワールドに戻った。

「クロスローダーか。ウチ凄いものを手にしちゃったみたい。」

それはこれから起きる事件の発端にしか過ぎなかった。

アニフレのデジモン紹介コーナー

ライムとレイキーが紹介してくれるぞ。

「ヒューマサテライトモン、体が人工衛星の特徴を持ったデジモンだ。」

「必殺技は、背中についているソーラーパネルで力を蓄えて解き放つサングランドバースト。」

くさかげ「じゃー、ロードバスターモンとデジクロスや！デジクロス！」

「ロードサテライトモン、輝く自分のカッコよさで相手を翻弄するで。」

「逆に翻弄されそうだよ！」

次回予告

「JRの路線の一部が破壊されている。」

「これはきつとデジモンの仕業だ。」

「職員の様子が変わるのは、重々気付いたけど・・・」

「次回第二話壊された線路の謎、迫りくるグランドロコモンの汽笛」

「さあ、次回も行こうぜ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0660z/>

サイドクロスイン・ザ・テイマーズモード

2011年12月2日17時55分発行